



静岡家庭医養成 プログラム

浜松医科大学医学部附属病院
総合診療専門研修プログラム

ほっと一服のお茶を楽しめるような、
地域の人の健やかな日常を守る。
日本の穏やかな原風景を守り、
人の健康と暮らしを支えるのは、
人に寄り添う総合診療。



6つの特徴

静岡家庭医養成プログラム



～子宮の中から天国まで～

Passion

1

圧倒的!全科診療

家族ぐるみのかかりつけ医になることができるように、内科・訪問診療などを中心とした医療はもちろんのこと、小児科、産婦人科、精神科、皮膚科、整形外科、外科、救急科などの領域についてもプライマリ・ケアとして適切に診療できる家庭医療専門医を養成しています。

2

4

最先端&充実した研修環境

家庭医療の先進国である米国のクリニックを参考に作られた家庭医療クリニックを中心にトレーニングを行います。プリセプター室(指導室)を診察室の隣に設置しており、診療の合間にもいつでも相談できる体制を整えています。

また、家庭医療クリニックと連携する自治体病院だけでなく、浜松医科大学医学部附属病院、磐田市立総合病院、中東遠総合医療センター、藤枝市立総合病院など高度急性期病院でもトレーニングします。

5

研修施設 MAP

① 浜松医科大学医学部附属病院

② 菊川市家庭医療センター

③ 菊川市立総合病院

④ 森町家庭医療クリニック

⑤ 公立森町病院

⑥ 御前崎家庭医療センター
しろわクリニック

⑦ 市立御前崎総合病院

⑧ 磐田市立総合病院

⑨ 中東遠総合医療センター

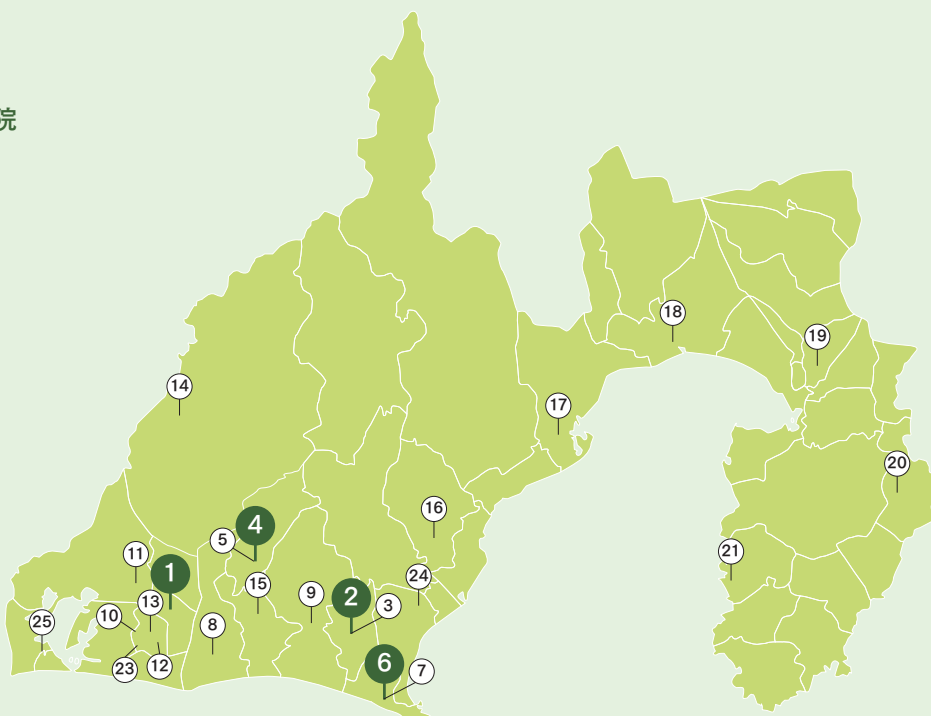
⑩ 聖隷浜松病院

⑪ 聖隷三方原病院

⑫ 浜松佐藤町診療所

⑬ 坂の上ファミリークリニック

⑭ 佐久間病院



⑮ 袋井市立聖隷袋井市民病院

⑯ 藤枝市立総合病院

⑰ 清水厚生病院

⑱ トータルファミリーケア北西病院

⑲ 三島共立病院

⑳ 伊東市民病院

㉑ 西伊豆健育会病院

㉒ 南生協病院 | 愛知県

㉓ 浜松医療センター

㉔ 榛原総合病院

㉕ 市立湖西病院

地域で活躍できる家庭医療専門医を育成

ソロの診療ではなく、グループで診療ができる家庭医療専門医を育てています。機能強化型在宅療養支援診療所として在宅ケア、在宅ホスピス(終末期医療、緩和医療)や看取りを積極的に行っています。

ウィメンズヘルス研修

浜松医科大学寄附講座「産婦人科家庭医療学講座」特任准教授が直々に婦人科診療や分娩の指導をします。産婦人科の研修は3年目に2ヶ月間、病院の産婦人科で研修し、希望すれば4年目以降も引き続き研修することができます。妊婦健診やHPVワクチン啓発など行っています。

3

経験豊富な指導医陣

全科的に幅広く、かつレベルの高い診療ができる家庭医療専門医を養成するための指導体制を整えています。指導医プロフィール詳細はホームページをご覧ください。

6

ミシガン大学家庭医療学教室が支援

家庭医療の先進国である米国のミシガン大学家庭医療学講座と連携をしています。ミシガン大学講師によるオンラインレクチャーの他、年に1度講師を招聘しグランドラウンド(GR)での対面でのレクチャーも開催しています。また、希望する方は2週間の米国での家庭医療研修を行うことができます。

主要研修施設



菊川市家庭医療センター
(あかっちクリニック)
(静岡県菊川市)

■1日平均外来患者数	132.9人
■在宅実患者数(月平均)	113人
■看取り患者数(年間)	67人



森町家庭医療クリニック
(静岡県周知郡森町)

■1日平均外来患者数	93.9人
■在宅実患者数(月平均)	115人
■看取り患者数(年間)	45人



御前崎市家庭医療センター
しろわクリニック
(静岡県御前崎市)

■1日平均外来患者数	99.3人
■在宅実患者数(月平均)	102.3人
■看取り患者数(年間)	40人

SFM の研修カリキュラムの強み（特色）

産婦人科、整形外科、精神科、泌尿器科、皮膚科、 緩和ケア研修を必須としています！

当プログラムのキャッチフレーズは「子宮の中から天国まで」。各家庭医療センターでは、0歳から100歳超まで様々な世代、疾患の患者さんが来院されます。小児科、救急はもちろんのこと、上記診療科を研修の必須科として、SFM独自の実践的な研修を行っています。地域で暮らす人の全てのニーズに応えられるよう全科診療のスキルの習得を目指します。

「総合診療専門医」「新・家庭医療専門医」の 2つの受験資格が得られます。

当プログラムでは3年で「総合診療専門医」、+1年の研修で「新・家庭医療専門医」の受験資格を得ることができます。日本専門医機構と日本プライマリ・ケア連合学会のプログラムの連動型研修として、2つの資格が最短で取得できる4年間の研修をお勧めしております。それぞれの資格を受験する際のポートフォリオの作成も研修中に指導を受けることができるので、専門医試験対策もばっちりです！

年間を通してグランドラウンド(GR)という一貫した 横断的教育コンテンツが用意されています！

臨床経験を通じた自己省察や多領域の講師によるレクチャー等の機会を確保することで家庭医としての基礎力を養成しています。所属サイトが3つあるため、他施設で研修している専攻医同士の交流の場でもあります。各施設で研修を行っている専攻医同士でお互いの成長を確かめ合う機会になっています。また、プログラム内の指導医や外部講師のレクチャーが月に2回受けられることも特徴です。

10年を超える プログラムの歴史と実績があります！

地域における家庭医療センターの役割が浸透しており、プライマリ・ケアを学ぶために必要な幅広い患者層に利用していただける診療セッティングとなっています。研修連携施設との相互理解により、一貫した全人的医療が実践できます。静岡県は全国的にみても医師が少ない地域です。そんな環境下だからこそ、家庭医・総合診療医の力が必要とされます。行政や近隣施設と連携を取りつつ、『地域で患者さんを診る』ことが当プログラムの特徴であり、患者さんから頼りにされる理由です。

研修カリキュラム

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 年目	ローテーション	総合診療Ⅰ			小児科			総合診療Ⅱ			救急科		
	クリニック	Half-day Back											
2 年目	ローテーション	内科						選択			総合診療Ⅱ		
	クリニック	Half-day Back											
3 年目	ローテーション	整形外科 (総診Ⅱ)	産婦人科 (総診Ⅱ)	緩和ケア (総診Ⅱ)			選択			総合診療Ⅰ			
	クリニック	One-day Back									週2コマの専門科外来研修		
総合診療専門医受験資格													
4 年目	ローテーション	家庭医療Ⅰ											
	クリニック	週2コマの専門科外来研修(精神科／皮膚科／泌尿器科／他選択)											
新・家庭医専門医受験資格													

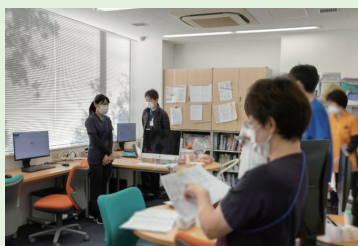
※1 コマ＝半日

■上記はローテーション案であり、研修する時期は異なる可能性があります。（内容については変更ありません）

■3年目と4年目のローテーションについては専攻医の数によって入れ替わる可能性があります。

■4年間継続して所属先のクリニックにて外来研修を行います。

（Half-day Back：1週間のうちに半日戻り） One-day Back：1週間のうちに1日戻り）



8:15 業務開始：クリニック朝礼

毎朝クリニック内のほぼ全てのスタッフが集まりその日の注意事項や連絡事項、予定を報告します。

8:30 訪問診療

在宅医療支援室のスタッフが同行し訪問診療に出発。

電子カルテも持参するので、その場や車の中でカルテの記載や処方箋の発行ができます。

週に1回在宅医療支援室、訪問看護ステーションとの在宅カンファを行っており、問題点をみんなでディスカッションしたりと、患者さんの情報を密に共有しています。訪問診療は、比較的安定した患者さんから担当し、徐々にステップアップします。慢性疾患から急な状態の変化、お看取りまでクリニック、ケアマネ、行政が協力し、患者さんやご家族に寄り添った医療を提供しています。



12:00 昼食

レジデント室のラウンジでゆっくりお昼をとります。同期や先輩、指導医の先生たちと外食することもあります。研修医や学生の発表を聞いたり、外部講師による勉強会を行うこともあります。



13:30 午後 外来診療開始

診察室の隣にプリセプター室が設置されており、フリーの指導医が常に待機しています。

SFMでは指導医の先生が専攻医の指導のために配属されており、相談しやすい環境を整えています。

SFMの専攻医は1年目から終了まで途切れることなく自サイトでの外来枠を持っており、長期にわたって継続診療を行うことが出来ます。「子宮の中から天国まで」のキャッチコピー通り、幅広い診療を行っています。中にはプレコンセプションケア（妊娠前からカップルに健康管理を提供するケア）から妊婦健診を経て、生まれたお子さんの予防接種などまで継続してみている方や、家族全員を同じ主治医が診ていたり、家族ぐるみのかかりつけ医であることを実感できます。



16:00 予防接種担当

小児の予防接種だけでなく、成人に対するワクチン（肺炎球菌、破傷風、HPV等）や渡航ワクチン外来も行っています。

16:30 振り返り

診療が終わったら専攻医が中心となり指導医、学生、初期研修医とその日の振り返りを行います。当日の症例での疑問点を相談したり、学んだ内容を共有します。17時までに全ての業務が終わるようにタイムマネジメントも心がけています。



17:00 業務終了

振り返りが終わり次第、各患者の記録を書いたり、次の外来の予習をしたり、自己学習をして帰宅します。

番外編



学校医活動 学校医として高校での性教育やマラソン大会随員、生徒の定期健診。

産業医活動 地域の会社の産業医を担っています。資格取得のためのサポートがあります。

その他活動

- 要保護児童対策地域協議会や就学支援委員会、不登校児童の情報共有会など、自治体とタッグを組んでいるからこそできる、町ぐるみ、地域ぐるみの活動を行っています。
- 週に2回公認心理士の外来も併設しており、心理検査や症例相談ができます。

カリキュラムを支える4つのサポート体制

1 グランドラウンド(GR)

第2・4木曜日の午後には、指導医や専攻医が各サイトから集まり、専攻医の振り返りやレクチャー、セミナーなど専攻医の為の学びの機会を設けています。

普段はそれぞれのローテートスケジュールに沿って研修している専攻医にとって、GRはプログラム全体の交流の場にもなっており、情報交換ができる貴重な時間になっています。



2 外来プリセプティング

各クリニックの外来裏にはプリセプター室(指導室)を設置しており、診療の合間いつでも相談できる環境が整っています。

様々な症例を診る総合診療医・家庭医の専攻医には心強いサポート体制です。



3 アドバイザー制度

一人につき一人の指導医がアドバイザーとなり、定期的にアドバイザーミーティングを行って、家庭医としての成長をともに確認していきます。



静岡のゆったりとした雰囲気の中で、
一緒に総合診療医・家庭医を目指しませんか？



4 オリジナル研究プロジェクト

4年間を通して、少なくとも一つのオリジナルな研究プロジェクトを実施します。

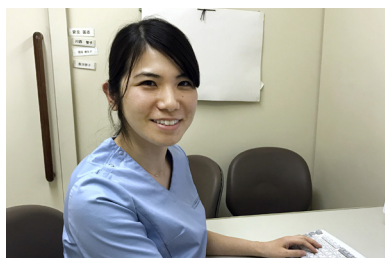
そのために必要な知識を身につけ、メンタリングを受けながら、研究計画の立案・実施、データ収集、データ分析・まとめ、学会発表、論文発表を経験します。

専攻医・SFM 修了生のコメント



御前崎市家庭医療センターしろわクリニック 指導医 網分信二 卒業年：2008 年 / 福岡県出身

医師としてのやりがいや楽しさは「患者さんに喜ばれてなんぼ」などところがあるんですよね。小さな悩みから大きな悩みまで色んなことに応えて、たとえ治らない病気であっても最後は幸せな時間を過ごしてもらおうという治療以上のことが醍醐味だったりもします。患者さんや病気を診たい、家族も診たいし地域も元気にしたい、そんな好奇心旺盛な人には特に向いているのが家庭医ではないかと思います。興味のある方はぜひ見学だけでも参加してみてください。お待ちしております！



産婦人科家庭医療学講座 岩田智子 卒業年：2009 年 / 静岡県出身

家庭医の特徴の一つに分野の“幅広さ”があると思います。これがやりたい!というのが定まってない方はもちろん、色々やりたいと思っている方で、自分の引き出しの多さを広げるという意味でもSFMはおすすめのプログラムです。たくさんの家庭医が日本中に広がっていくことが、今後の日本の医療のためになると思うので、是非みなさんも目指して欲しいなと思います。



めぐみ在宅クリニック 津山 梓 卒業年：2009 年 / 神奈川県出身

家庭医を在宅で行うことは、とても密接な関係性にあると実感しています。在宅に行くとき患者さんだけでなく、ご家族や特にケアをする人の心と身体の健康も患者さんに直結する問題だったりするので、日ごろのコミュニケーションがとても役立ちます。例えば、その患者さんにとって好きなディサービスの話をしてみたり、好きな歌を歌ってみたり、患者さんが笑顔になれるのはどんなことか?をご家族と一緒に考えようといったかわりの中で、「先生にここまでしてもらえて良かった」と言われたときに本当にやりがいを感じます。そんな家庭医、在宅での緩和ケアも含めて、一緒にできる仲間が増えればいいなと思います。



森町家庭医療クリニック 小串真澄 卒業年：2018 年 / 長崎県出身

SFMでの4年間を終えた今、4年前後期研修先の選択を迷っていた自分に「間違いなかったよ」と伝えてあげたいです。理由はたくさん思いつくのですが、二つ紹介します。一つは、研修の自由度が高く、現在・未来のニーズに合わせて選択することができます。私は女性医療の症例を積みたかったので、今も週1コマ産婦人科で外来を行っています。二つ目は、ポートフォリオや研究プロジェクトなど、臨床以外の活動にも時間を割くことができる環境があります。海外の学会に参加したり、勉強会の開催に携わることができ、将来の夢を叶える足場を作ることができました。クリニックベースの家庭医研修を探している方、SFMでの4年間は必ず力になります!静岡でお待ちしております!



菊川市家庭医療センター 小林駿介 卒業年：2016 年 / 静岡県出身

地域の人々に頼りにしてもらええる医師。そんな家庭医像を目指して日々悩みながらも楽しく研修生活を送っております。私は2年前まで救急集中治療の現場にいましたが、重篤な患者さんの様々な転機を見ていく中で、もっと長く患者さんの人生と関わりたいと思うようになりました。そんな中、老若男女、あらゆる困りごとの相談ができ、その人の人生、さらにはその家族や周囲の状況までも目配る『家庭医』という存在に巡り合い現在に至ります。患者さんと点ではなく線で、さらには面で関わっていきたくと考えている方にとってSFMはオススメの選択肢だと思います!

SFM で育った家庭医のいま

SFM 修了生の多くが静岡県内で活躍しています。

プログラム内で指導医・スタッフとして勤務



10人

産婦人科医として勤務



3人

家庭医・総合診療医として勤務



11人

実家の医院で勤務



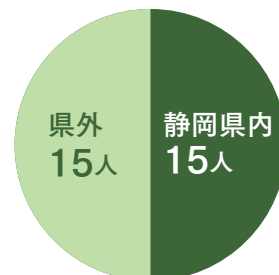
4人

海外勤務



2人

修了生の勤務地



ごあいさつ

今こそ、家庭医療／総合診療による社会貢献へ

静岡家庭医養成プログラム(SFM)は、静岡県中東遠地域の5市1町(磐田市、菊川市、森町、御前崎市、掛川市、袋井市)からなる静岡家庭医養成協議会と浜松医科大学との連携のもとに運営され、平成22年度より専攻医やフェローを育成してきました。

SFMではプログラム開始当初より、「子宮の中から天国まで」をキャッチフレーズとし、家族ぐるみのかかりつけ医として全科診療を提供すると同時に、ヘルスマネジメントや健康増進を常に視野に入れた診療を心がけています。また、グループ診療による効率的および効果的な共同学習と、チーム医療による患者ケアの質改善を目指し、さらには、日常の診療疑問を探求するリサーチマインドの育成も積極的に行っています。

静岡県中東遠地域は、慢性的な医師不足による地域総合病院専門医の疲弊と高齢化社会への適応が問題となっており、入院管理、救急医療、在宅医療、緩和医療に加え、地域資源や行政を含めた多職種協働におけるリーダーシップを発揮できる家庭医・総合診療医が必要とされています。また、新規産婦人科医師数の持続的な減少も問題とされており、少子化社会に対する周産期医療の維持のために、家庭医・総合診療医の周産期医療への参画も期待されています。

そのため、SFMでは産婦人科、整形外科、緩和医療科、外科での研修を必須とし、プライマリ・ケアでよく遭遇する他領域の研修も行えるよう十分な選択期間を設けています。修得した知識・技能を次第に統合していき、最終的には様々な地域や社会のニーズに柔軟に適應できることを目標とした研修カリキュラムを構築しています。同時に、他職種との関わりを通して自己省察を深めることで、より効果的なチーム医療の提供を社会に還元できることを重視しています。SFMでは特に、高齢者医療、在宅緩和ケア、終末期における意思決定、女性医学が充実していますが、現在は浜松医科大学遺伝診療部、臨床心理士、薬剤師とのプライマリ・ケアにおける連携など新たな取り組みも出てきています。

SFMでは研修環境や教育方法の改善を常に意識しています。SFMの特徴の一つである外来診療のプリセプティングでは、教育担当の指導医が常在し、専攻医の症例について、家庭医療の様々なコンセプトやツールを利用しながらディスカッションを行います。その他、外来診療の振り返り、月2回のグラウンドラウンドでの外部講師による特別講演、浜松医科大学とミシガン大学家庭医療科による研究・プロジェクトへのサポート、定期的なメンタリング、多職種カンファレンスなど、教育体制が充実しています。初期臨床研修医や浜松医科大学医学部生も積極的に研修・実習に関わっており、教育と自己学習の活気に溢れています。

静岡県中東遠地域は、温暖な気候、温厚な住民気質、数多くの歴史的名所や温泉、新鮮で美味しい食材など、働いていて非常に楽しい環境です。地域のニーズに応えるべく高齢者医療・在宅医療・女性医学を含む全科診療の追求、研究・プロジェクトや医学教育の発展、公衆衛生の実践など、さらなるprofessional developmentを目指している方は是非お越しください。SFMスタッフ一同心よりお待ちしております。



プログラム責任者

井上 真智子

募集案内

施設見学

学生、初期研修医、当プログラムに興味のある医師の方の見学を随時受け付けています。
ホームページのお問い合わせ、または下記までお気軽にご連絡ください。

専攻医・フェロー募集

応募資格

専攻医：初期研修修了予定および修了者

フェロー：別途相談

募集定員

専攻医：8名(1学年) フェロー：若干名

応募手順

秋頃に採用試験を行います。※詳細が決まり次第ホームページでお知らせします。

選考方法

面接試験を行い、プログラム管理委員会の審議を経て決定します。

お問い合わせ

下記連絡先までお気軽にお問い合わせください。

\ SNS配信中! /



浜松医科大学医学部附属病院
総合診療専門研修プログラム
(静岡家庭医養成プログラム)

〒431-3192 静岡県浜松市中央区半田山1-20-1(浜松医科大学)
TEL.053-435-2416 FAX.053-435-2417
お問い合わせ受付時間 9:00~16:00

ホームページ
<https://www.shizuoka-fm.org/>
メール
sfm@shizuoka-fm.org

